

独立行政法人酒類総合研究所契約監視委員会

平成 26 年度第 1 回定例会議審議概要

開催日時	平成 26 年 5 月 16 日（金）～平成 26 年 6 月 4 日（水）	
開催場所	持ち回り開催	
委員名簿	委員長 椿本雅朗（研究所監事 公認会計士） 委員 瀧 敦弘（広島大学経済学部長） 委員 田 邊 尚（弁護士） 委員 沼野伸生（研究所監事） 委員 二村博司（広島大学大学院社会科学研究科教授）	
審議事項	平成 25 年度下半期分の契約内容の審議	
抽出案件（内訳）	5 件	（案件の審議） 左記の抽出案件について審議を行った。
競争性のない随意契約	一件	
競争性のある随意契約	一件	
一 者 応 札	一件	
そ の 他	5 件	
委員会からの意見の具申等	特になし。	
平成 25 年度下半期の契約内容の審議		
契約件名	意見・質問	回 答 等
醸造用酵母ゲノムリ シーケンス解析業 務	応札者数が前年度と同数であること及び落札率が大きく上昇している点が懸念される。次年度も当案件の入札を実施するのであれば、応札者数を増やすように努めるべきである。	高度な専門性が求められる業務であり、対応可能な業者が限定される案件であるが、意見を踏まえ、今後も応札者数を増やすよう努める。
パーソナルコンピュ ータの調達	一般的な機器の調達である割には、応札者数が少ない。また、入札公告の時期についても、全国的に当製品の需要が増加している時期と重なると考えられるが、早期に調達時期等の検討を行うべきであったと思われる。	新製品が出るサイクルが速い物品であり、あまりに早期の調達は適当でないという側面もあるが、結果的には 3 者の応札となったため、意見を踏まえ、今後の同様の案件については、応札者を増やすよう努める。

契約件名	意見・質問	回答等
ネットワーク機器の調達	複数応札となっており、適正な契約が行われている。	
高速液体クロマトグラフ質量分析計の調達	公告期間が長期間であったこと及び高額な機器であるにもかかわらず、応札者数が少ない。また、落札率も高く、応札者数を増やす努力をもっと行うべきではないか。	高度な専門性を有する特殊な機器であるため、機器の調達が可能な業者が少数であったことが原因と考えられるが、意見を踏まえ、可能な限り応札者を増やすよう努める。
紫外可視分光光度計の調達	複数応札となっており、適正な契約が行われている。	